

平成28年度第2回 木曾悠久の森管理委員会
森林総合利用・地域振興専門部会

議事次第等

平成28年11月1日 14:00～16:00
中津川文化会館「多目的研修室」

- 1 開 会
- 2 林野庁中部森林管理局計画保全部長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 森林を活用した地域振興策等の意見交換について
 - (2) その他
- 4 閉会

平成28年度第2回木曾悠久の森管理委員会
森林総合利用・地域振興専門部会

配付資料一覧表

議事次第

出席者名簿

木曾悠久の森管理委員会専門部会名簿

配席図

資料1 森林を活用した地域振興策等の意見交換について
別図 「木曾悠久の森」について

資料2 森林を活用した地域振興策等(各団体提出資料)
資料2-1 上松町観光協会 提出資料
資料2-2 NPO 木曾ひのきの森 提出資料

参 考 木曾悠久の森管理委員会の専門部会の運営について

木曾悠久の森森林総合利用・地域振興専門部会出席者名簿

| 所属 | 氏名 | |
|----------------|-------|------|
| 中津川市 市長 | 青山 節児 | |
| 中日新聞社 論説委員 | 飯尾 歩 | |
| 和歌山大学観光学部 教授 | 大浦 由美 | (座長) |
| 東京農業大学短期大学部 助教 | 下嶋 聖 | |
| 上松町 町長 | 田上 正男 | |
| 信濃毎日新聞社 編集委員 | 増田 今雄 | |

林野庁中部森林管理局出席者名簿

| 所属 | 氏名 |
|-------------------------|-------|
| 中部森林管理局計画保全部 計画保全部長 | 江坂 文寿 |
| 中部森林管理局計画保全部 保全課長 | 松元 和正 |
| 中部森林管理局計画保全部 計画課長 | 栗山 喬行 |
| 中部森林管理局計画保全部 計画課流域管理指導官 | 村松 亮治 |
| 中部森林管理局計画保全部 計画課経営計画官 | 古瀬 美樹 |
| 中部森林管理局計画保全部 計画課経営計画官 | 前田 英孝 |
| 中部森林管理局計画保全部 計画課生態系保全係長 | 井上 呂登 |
| 木曾森林管理署 署長 | 新津 清亮 |
| 木曾森林管理署南木曾支署 支署長 | 酒向 邦夫 |
| 東濃森林管理署 署長 | 高塚 慎司 |
| 木曾森林ふれあい推進センター 所長 | 新家 孝之 |

関係団体出席者名簿

| 所属 | 氏名 |
|------------------|---|
| 中津川市 市長 | <small>あおやま</small> 青山 <small>せつじ</small> 節児 |
| 付知町まちづくり協議会 副会長 | <small>いとう</small> 伊藤 <small>こうへい</small> 公平 |
| やさか観光協会 会長 | <small>よしむら</small> 吉村 <small>としひろ</small> 俊廣 |
| 加子母村むらづくり協議会 会長 | <small>なかじま</small> 中島 <small>のりお</small> 紀干 |
| 裏木曾古事の森育成協議会 会長 | <small>みうら</small> 三浦 <small>はちろう</small> 八郎 |
| 上松町 町長 | <small>たうえ</small> 田上 <small>まさお</small> 正男 |
| 上松町観光協会 事務局長 | <small>みうら</small> 見浦 <small>たかし</small> 崇 |
| NPO木曾ひのきの森 理事長 | <small>よこい</small> 横井 <small>つよし</small> 剛 |
| 王滝村 村長 | <small>せと</small> 瀬戸 <small>ひろし</small> 普 |
| 王滝観光総合事務所 理事長 | <small>おおや</small> 大家 <small>こうすけ</small> 考助 |
| 大桑村 村長 | <small>きぶね</small> 貴舟 <small>ゆたか</small> 豊 |
| 大桑村産業振興課 課長 | <small>すずき</small> 鈴木 <small>まさし</small> 昌司 |
| 大桑村観光協会 協会長 | <small>さくらい</small> 櫻井 <small>ひでお</small> 秀夫 |
| 岐阜県恵那農林事務所林業課 課長 | <small>てらだ</small> 寺田 <small>ひでき</small> 秀樹 |
| 木曾広域連合 副管理者 | <small>ふるはた</small> 古幡 <small>かつひこ</small> 勝彦 |

(オブザーバー)

(オブザーバー)

木曾悠久の森管理委員会専門部会名簿

H28.04.01

| 専門部会名 | 氏名 | 所属 | 役職 |
|-----------------|-------|-----------------------------|----------|
| 植生管理専門部会 | 岡野 哲郎 | 信州大学農学部 | 教授（座長） |
| | 大住 克博 | 鳥取大学農学部附属 フィールドサイエンスセンター | 教授 |
| | 正木 隆 | 国立研究開発法人 森林総合研究所森林植生研究領域 | 領域長 |
| | 山本 博一 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授（利用座長） |
| | 横山 隆一 | 公益財団法人日本自然保護協会 | 参事 |
| | 大浦 由美 | 和歌山大学観光学部 | 教授（振興座長） |
| 森林資源利用専門部会 | 池田 聡寿 | 池田木材株式会社 | 代表取締役社長 |
| | 植木 達人 | 信州大学農学部 | 教授 |
| | 野村 弘 | 木曾官材市売協同組合 | 理事長 |
| | 早川 正人 | 付知町まちづくり協議会 | 会長 |
| | 山本 博一 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授（座長） |
| | 横山 隆一 | 公益財団法人日本自然保護協会 | 参事 |
| | 岡野 哲郎 | 信州大学農学部 | 教授（植生座長） |
| | 大浦 由美 | 和歌山大学観光学部 | 教授（振興座長） |
| 森林総合利用・地域振興専門部会 | 青山 節児 | 中津川市 | 市長 |
| | 飯尾 歩 | 中日新聞社 | 論説委員 |
| | 植木 達人 | 信州大学農学部 | 教授 |
| | 大浦 由美 | 和歌山大学観光学部 | 教授（座長） |
| | 下嶋 聖 | 東京農業大学短期大学部 | 助教 |
| | 田上 正男 | 上松町 | 町長 |
| | 増田 今雄 | 信濃毎日新聞社 | 編集委員 |
| | 岡野 哲郎 | 信州大学農学部 | 教授（植生座長） |
| | 山本 博一 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授（利用座長） |

※ 必要に応じ、上記以外の委員も専門部会に加わることができる。

森林を活用した地域振興策等の意見交換会について

1 目的

木曾地方において取り組まれている森林を活用した地域振興策や観光対策について、地元市町村長、観光協会、NPOなどの関係者から、現在の取組状況や今後の方向をお聴きし、地域の皆様の思いを「木曾悠久の森」の今後の取組に反映させることを目的としています。

2 内容

- ・参加者から、森林を活用した地域振興等の取組状況や今後の方向性について紹介していただくこと。
- ・「木曾悠久の森」の活用などに対する意見・要望をお聴きすること。
- ・木曾地方全体における森林を活用した地域振興等について意見交換すること。

「木曾悠久の森」について

温帯性針葉樹林は、第四紀以降(260万年前～)世界的に分布していたといわれていますが、資源としての有用性が高かったため文明の発達とともに衰退し、今では、木曾地方のヒノキ、サワラ等の木曾五木を含む温帯性針葉樹林は、世界的に見ても貴重な存在となっています。

中部森林管理局では、木曾悠久の森を設定し、この貴重な森林資源を保存・復元しながら永続的に利用していく取組を開始しています。

取組区域は、長野県木曾郡(上松町、大桑村、王滝村)と岐阜県中津川市の国有林です

〔 イメージ 〕

核心地域(コアa) 3,908ha

温帯性針葉樹林が大部分を占め、厳格に保存する地域

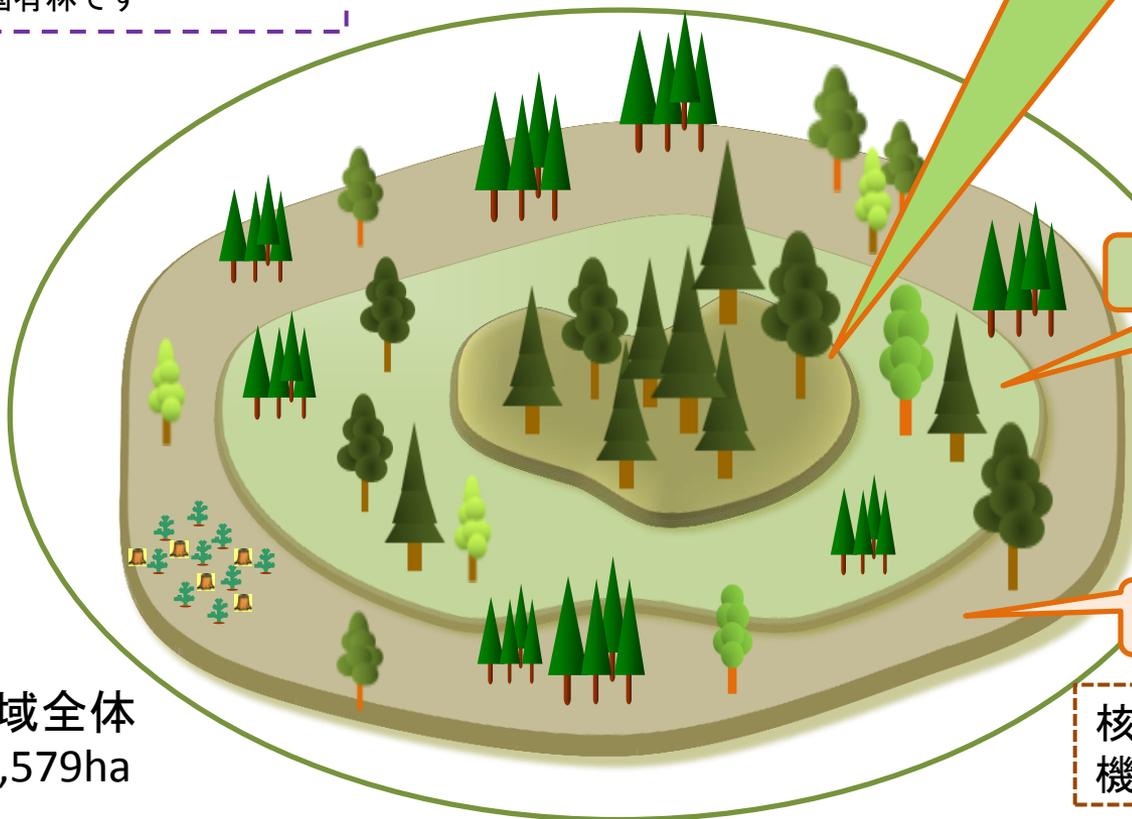
核心地域(コアb) 7,163ha

温帯性針葉樹林の多くが人工林に転換されており、天然林に誘導する地域

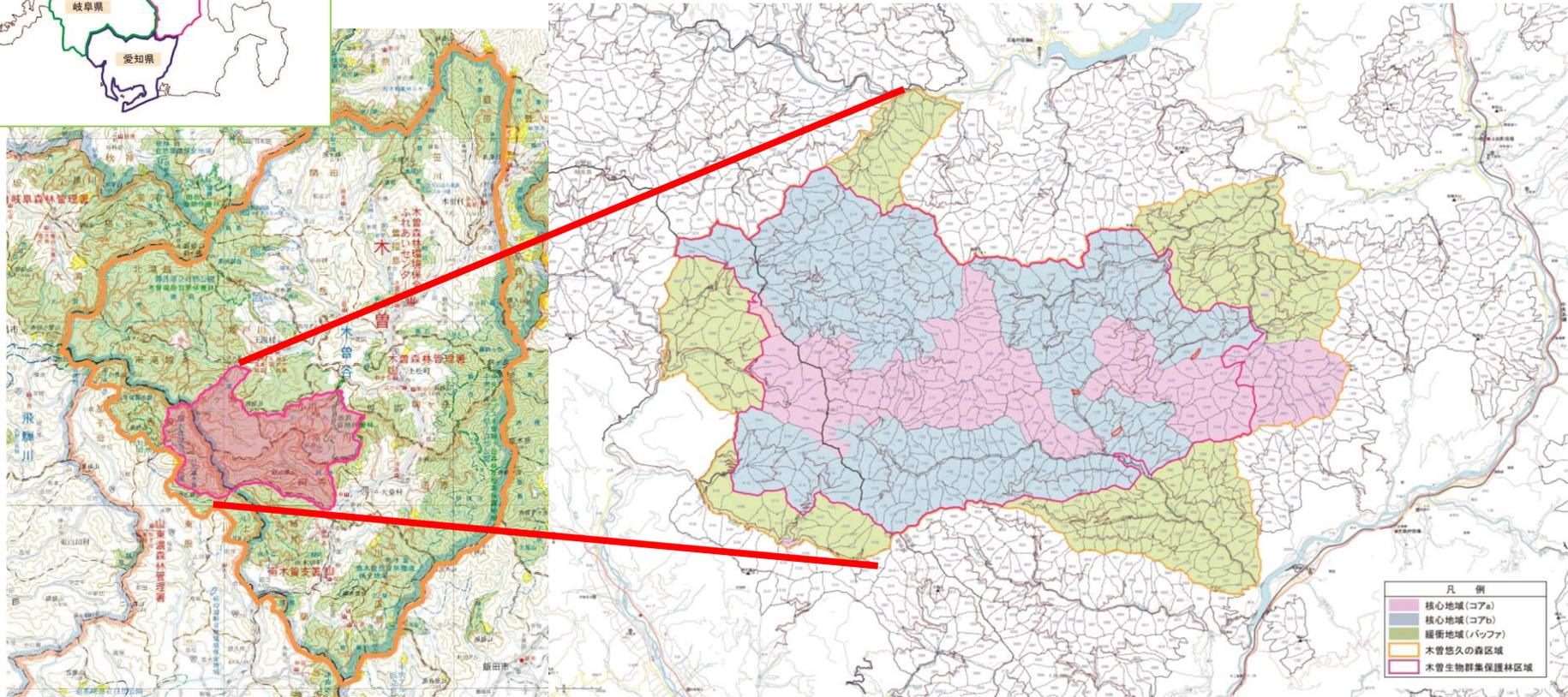
緩衝地域 5,508ha

核心地域の緩衝地域としての機能を持たせる地域

区域全体
16,579ha



「木曾悠久の森」の位置図



中部森林管理局では、平成26年度に有識者等による木曾悠久の森管理委員会を設置し、具体的な森林の取扱い等について三つの専門部会で検討を進めています。

国民的な伝統行事や国宝等の建造物の修復等のため特殊用材の需要・要望があった場合には、木曾悠久の森管理委員会での対応を検討することとしています。

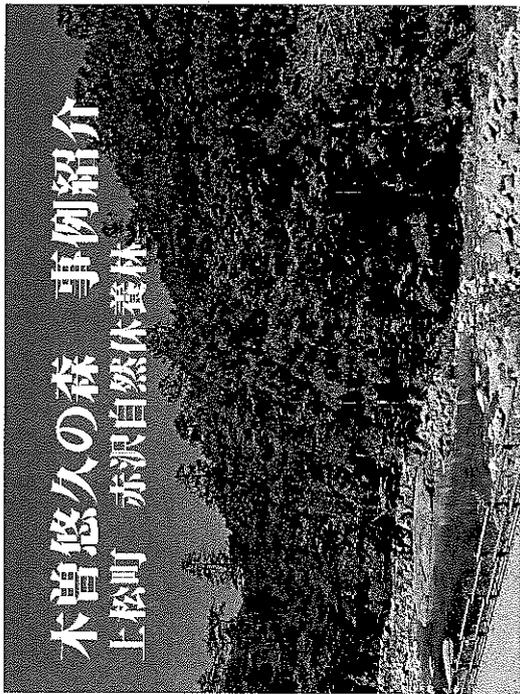
木曾悠久の森管理委員会名簿

| 専門部会名 | 氏名 | 所属 | 役職 |
|-----------------|-------|-----------------------------|----------|
| 植生管理専門部会 | 岡野 哲郎 | 信州大学農学部 | 教授（座長） |
| | 大住 克博 | 鳥取大学農学部附属 フィールドサイエンスセンター | 教授 |
| | 正木 隆 | 国立研究開発法人 森林総合研究所森林植生研究領域 | 領域長 |
| | 山本 博一 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授（利用座長） |
| | 横山 隆一 | 公益財団法人日本自然保護協会 | 参事 |
| | 大浦 由美 | 和歌山大学観光学部 | 教授（振興座長） |
| 森林資源利用専門部会 | 池田 聡寿 | 池田木材株式会社 | 代表取締役社長 |
| | 植木 達人 | 信州大学農学部 | 教授 |
| | 野村 弘 | 木曾官材市売協同組合 | 理事長 |
| | 早川 正人 | 付知町まちづくり協議会 | 会長 |
| | 山本 博一 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授（座長） |
| | 横山 隆一 | 公益財団法人日本自然保護協会 | 参事 |
| | 岡野 哲郎 | 信州大学農学部 | 教授（植生座長） |
| | 大浦 由美 | 和歌山大学観光学部 | 教授（振興座長） |
| 森林総合利用・地域振興専門部会 | 青山 節児 | 中津川市 | 市長 |
| | 飯尾 歩 | 中日新聞社 | 論説委員 |
| | 植木 達人 | 信州大学農学部 | 教授 |
| | 大浦 由美 | 和歌山大学観光学部 | 教授（座長） |
| | 下嶋 聖 | 東京農業大学短期大学部 | 助教 |
| | 田上 正男 | 上松町 | 町長 |
| | 増田 今雄 | 信濃毎日新聞社 | 編集委員 |
| | 岡野 哲郎 | 信州大学農学部 | 教授（植生座長） |
| | 山本 博一 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 教授（利用座長） |

※山本進一岡山大学理事・副学長は、木曾悠久の森管理委員会座長として各専門部会のオブザーバーを兼ねています。

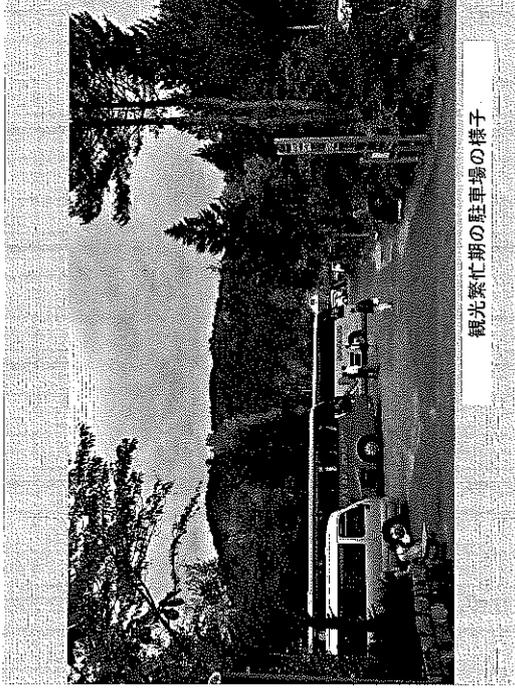
上松町観光協会 提出資料

- 赤沢自然休養林の開園は、1970年。年間利用者は約10万人（御嶽山噴火と、貸切バス法改正後は若干苦戦している）。
- 森林浴コースが8本整備されており、ひのき天然林や人工林など様々な観察が可能。
- 夏休みの自然体験イベントでは、溪流広場を設けて遊泳を楽しむ家族でにぎわう。
- 森林鉄道の保存運行も実施。年間6～7万人が乗車する。機関車の排煙機構には東京都の条例に適合した集塵フィルターを搭載しており、森林内に黒煙を出さない。
- ひのき林は広葉樹と共存する特性があるので、紅葉シーズンもにぎわう。
- 観光バスやマイカーの駐車場を設け、駐車料金から園内の維持費用を捻出している。
- アクセス道路は狭いが、県道は少しずつ拡幅工事を実施し、徐々に改善中。
- 千葉大学や日本医科大学の研究チームが調査を続けており、森林がもたらす健康増進効果の英語論文なども発表されている。
- 特に赤沢では、がん細胞に攻撃を仕掛けるNK細胞の免疫機能が向上することが実証され、来園者に医師が森林浴の効果を案内して歩くツアーも実施された。
- 県立木曾病院との連携で、園内に健康相談ができる施設も設けており、血圧測定やストレスチェックも可能。木曾看護専門学校の生徒も、実地研修を行っている。
- 観光施設は上松町が中心となって整備し、観光事業は町観光協会・町商業組合・民間企業が連携して運営している。
- 森林浴の散策コースは、多くの個所で木質チップを用いた遊歩道整備が進んでいる。
- 木質チップは犬山中学校生徒や豊明市民など、木曾川下流域や地元ボランティアの協力を得て、平成15年頃から始まった。
- 整備前はひのきの根が地表を這い、観光客があちこちを歩いていたので、木々の更新が妨げられてきた。整備後は歩く場所が定まり、周囲の森林が元気になってきた（15年前との比較写真を紹介）。
- 奥千本などがある学術研究路は入林を許可制にしており、学習や研究を目的としたケースのみ森林管理署で職員が同行して散策可能。上松町では春と秋の2回、森林浴大会を開催している。
- 冬季は氷点下10℃以下になり、水道施設などが破損するため完全休園。積雪は1m以上で、自家用車が到達するのは困難。





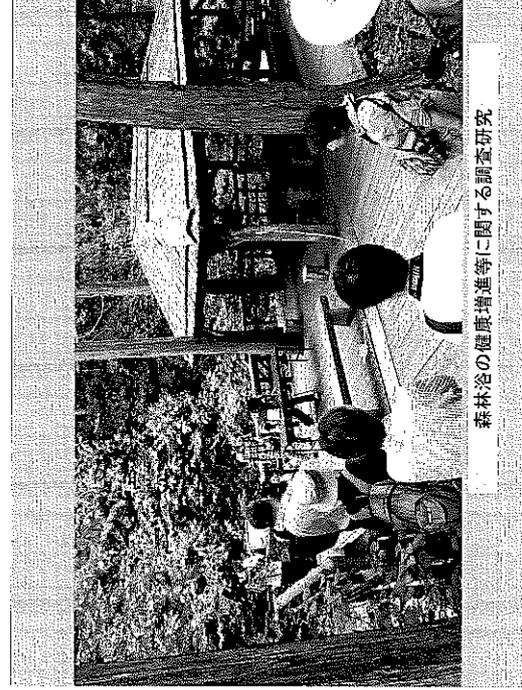
紅葉シーズンの赤沢溪谷



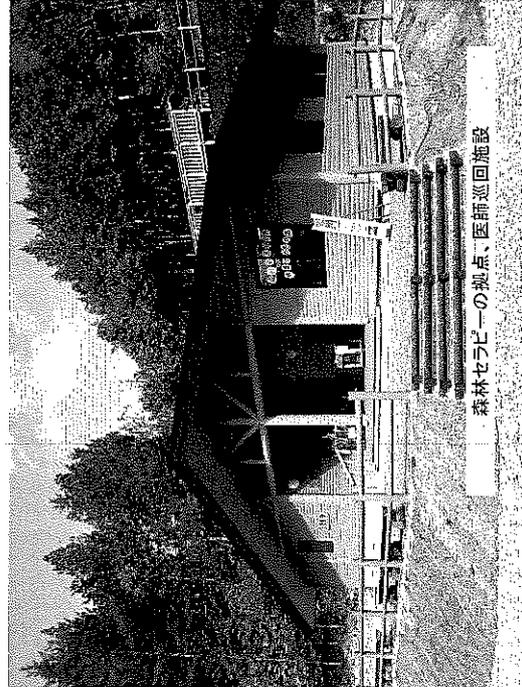
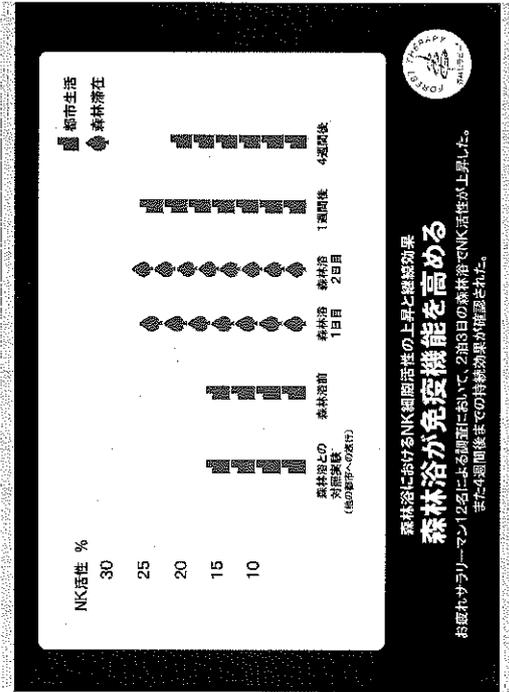
観光繁忙期の駐車場の様子

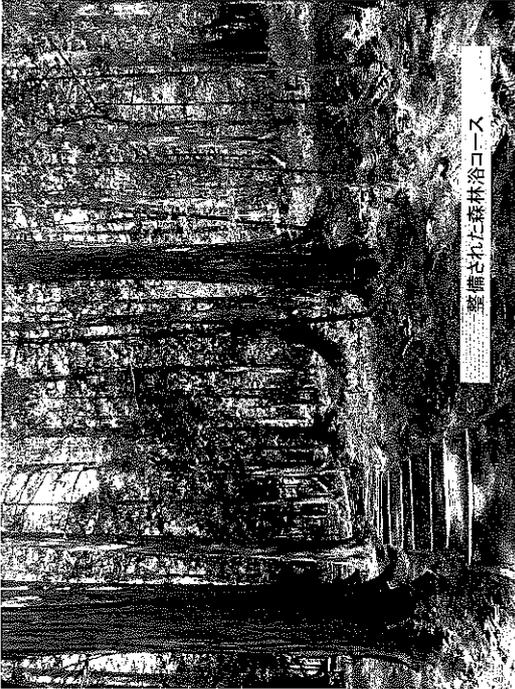


国有林内のアクセス道路

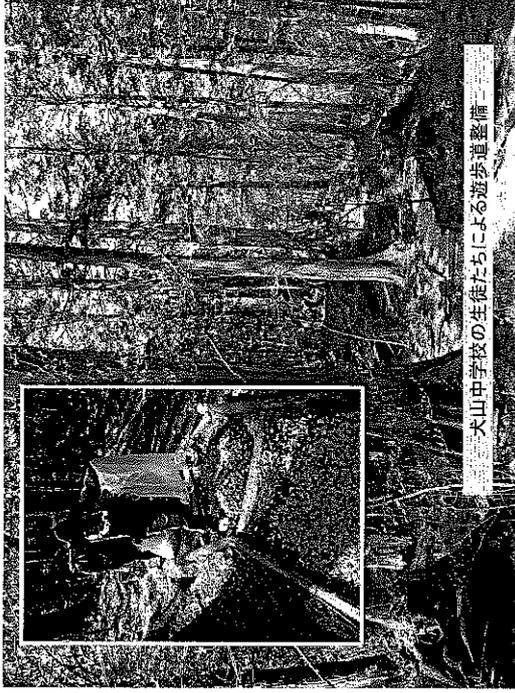


森林浴の健康増進等に関する調査研究

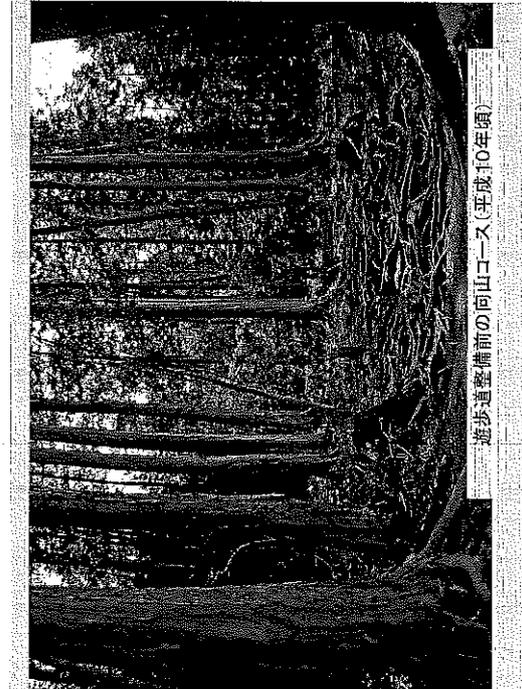




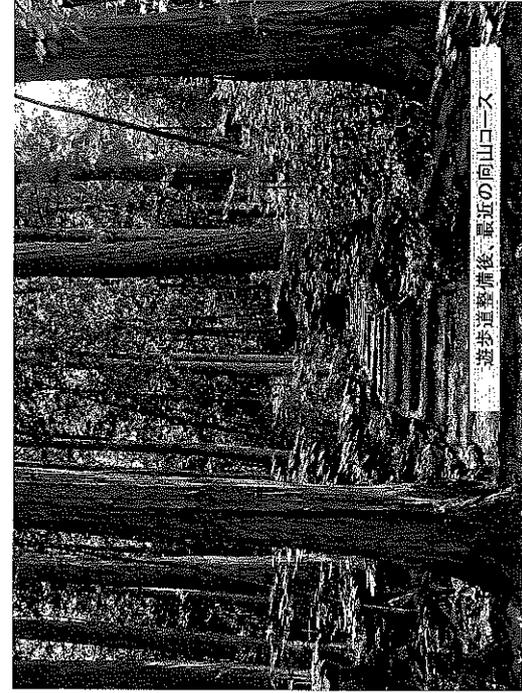
整備された森林浴コース



大山中学校の生徒たちによる遊歩道整備



遊歩道整備前の向山コース(平成10年頃)



遊歩道整備後、最近の向山コース



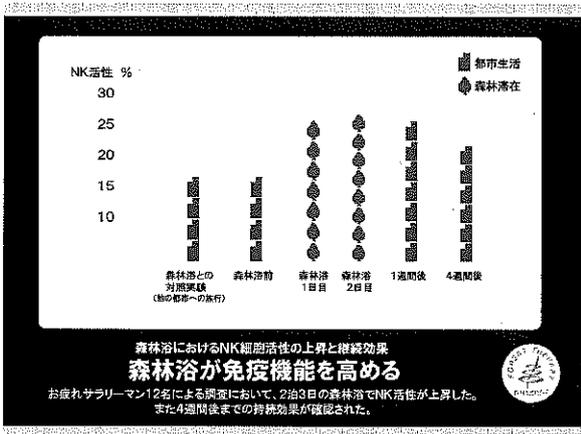




国有林内のアクセス道路



森林浴の健康増進等に関する調査研究



森林セラピーを用いたヘルスツーリズム



森林セラピーの拠点、医師巡回施設



研修室兼管理棟、食事処「せせらぎの里赤沢」



整備された森林浴コース



大山中学校の生徒たちによる遊歩道整備



遊歩道整備前の向山コース(平成10年頃)



遊歩道整備後、最近の向山コース



自然のままの奥千木 赤沢森林浴大会



冬季閉園中の赤沢自然休養林

N P O 木曾ひのきの森

提出資料



◆1月 「冬の華・栢淵」

赤沢自然休養林の自然景観は、木曾ヒノキの天然林と、清流といえます。
 山腹はすべて天然性木曾ヒノキの直立した美林に覆われ、渓谷は瀬となって勢よく流れ、淵となってイワナ、ヤマメを泳がせ、アカヤシオやベニマンサクなどの中からは、駒鳥のさえずりが聞かれます。
 このような白砂、清流、濃緑の描き出す美しさは、赤沢ならではといえます。
 ここ栢淵は、休養林のほぼ中央にあたり、冬は滝が凍り、川の流れが止まる、静寂のひとつです。
 氷の花が銀色に輝き、まばゆく光り、夏の流れからは想像すらできない、神秘的な光景が醸し出されます。
 そして、木曾谷の深山赤沢は、純白の雪に覆われ、深い静かな眠りについてゆくのですね。

(★撮影ポイント)



◆2月 「マンサクの花・床堰」

赤沢のヒノキ美林に、最初の春を告げる花。この花は1本の木に、たくさんの花を咲かせるので「万咲くから」漢作」、早春の山ではいちばん先に咲くので「まず咲くから」漢作」といわれるようになったそうです。
 ここ床堰の跡は、2月の末でも雪はまだまだ消えません。真っ白い雪の中、黄色い花の美しい4弁の花が、寒さにもめげず群が咲いて、ひと足早い春の訪れを告げています。
 赤沢の中央園地から中央橋の左奥へ、200mほど入った所に床堰があります。「床堰」とは聞き慣れない言葉ですが、大正年代初期以前に伐採した木曾ヒノキを谷沿いに集積し、木曾川の清流まで水の力を利用して運び出した際に、川の水をせき止めた所です。集積したヒノキを放出した木に乗せて、一気に押し流した、いわゆる「小谷狩」という「木曾式」伐木運材法」の一種です。
 この場所は当時の床堰の底に入れた柱材の1本が残り、明治時代の面影をわずかに留めている唯一の場所でもあります。
 これから床堰の水も温み、ネコヤナギの花が開くころ、赤沢の流れは日ごとに緩やかさを増してゆくのですね。

(★撮影ポイント)



◆3月 「バイカオオレン・大樹」

3月の中旬、うっそうと繁るヒノキ樹林の中に、かすかな木漏れ日を浴びて、かれんに咲き誇る純白の花。梅の花によく似ているので、「梅花黄連」の名があるとか、赤沢美林ではどこにも咲いていますが、大樹コースのほぼ中間に、1本だけ成育している「大樹」の根元付近に特に多く咲いています。
 「大樹」とは、赤沢美林が旧神宮備林であったころ、伊勢神宮の御造営用材候補として大径木で形質優良なヒノキを選び、立木の根元に金属製の番号札を貼って登録をし、手厚く保護してきた大木のことです。伊勢神宮では古く天武天皇の御代から、20年ごとに運宮が行なわれるよう定められています。その運宮に用いられる御造営ヒノキ材は、数百年の昔より、木曾の山から伐採されるのが習いとなっていました。近世においては、1万立方メートルに近い御造営材の中でも、いちばん大切な御種代木(みひしろぎ)——御神体を直接安置するもの——を赤沢美林から伐出しています。昭和60年6月3日、中央園地から1.5km南の地点で、招待者ら600人が見守る中、古式ゆかしく御種始祭りが執り行なわれ、御神木が伐出されました。
 現在、御神木跡地として多くの観光客が訪れるこの付近にも、ひっそりとかれんなバイカオオレンの花が咲いています。

(★撮影ポイント)



◆4月 「コブシの花・ヒノキ造林地」

4月の下旬、木曾川沿いの山々は、金山真跡を驚かすかのように、真っ白い花で覆われます。コブシの満開になる季節です。
 ここ赤沢自然休養林の川辺にも純白のコブシが咲き乱れ、黄土色の川面には、のどかな春の訪れとともに、澄み切った水が清くまばゆく光って流れ去ります。
 川岸から中央園地までは広大なヒノキ造林地で覆われ、まるで緑の海原を見る見えます。明治時代に植栽されたヒノキは、山の奥、岩の上までも客土して、隙間なく植林されています。
 りっぱに成林した美林を見つめていると、明治の人の心意気が伝わってくるようです。100年の長い歳月を経た現在もお、すくすくと伸びて、みごとな森を作り、国土の保全と日本の水脈として、大きな役割を果たしているのです。
 ヒノキ造林地の中に静かにたたずみ、目を閉じれば、きっと明治の人々の息づかいが聞こえてくることでしょう。

(★撮影ポイント)





◆ 5月 「アカヤシオの花・姫涇」

5月の初旬、姫涇に咲く花。葉っぱはまだ出ないのに、花だけが先に咲きます。薄色に上品で、可憐に咲くこの花は、身投げした姫君の化身でしょうか。大きな岩の間から1本だけ川面に身を乗り出すように咲いています。

今から800年前、安徳天皇の御代、源平の戦いに敗れた後白河院の皇子高倉宮以仁王の姫君(御年15歳)は、平家の追っ手を逃れて京都から美濃を経て木曾路にこられ、小川の里、島部落で発見されました。麻痺に身を屈しましたが、村人は後難を恐れて、かくまってはくれませんでした。姫は西の方現在の高倉峠を越えてこの地に至り、ついに逃れる術もなく、みずからこの涇に身を投げて若い生命を絶たしたという悲しい伝説が秘められています。

吊橋を渡って200mほどの所に姫宮神社があり、毎年紅葉の美しい10月15日に例祭があります。神社には明治13年6月27日、明治天皇の勅使として福島大将が参拝しており、お手植えの松が残っていました。

アカヤシオの花は、姫涇から赤沢美林の奥まで数十本咲き、背丈は2mくらいだが、花だけ目だったので、観光客の皆さんは桜の花に見間違えるようです。

(★ 撮影ポイント)



◆ 7月 「川サツキの花・麿香沢」

別名を「木曾川サツキ」ともいい、20年ほど前までは、木曾川のどこでも咲いていたのに、今では一輪も見られなくなってしまったこの花。赤沢の清流の岩間には、まだまだたくさん咲いています。ことに、麿香沢の付近には、小振りでも鮮やかな花が咲き誇り、その様は、まさしく天下一品です。

7月の初旬から、かわいらしいピンクの花びらをつけ、この地を訪れる旅人の心を和ませてくれます。いつまでも残ってほしい花です。

花の咲く麿香沢の流域は、木曾ヒノキの中でも、ことに良質な材を産した所でした。このヒノキは麿香の香がするといわれていました。一説には、宇治の戦いに敗れ、姫涇に身を投げた高倉以仁王の姫君が道手を逃れ、この地を過ぎた折、懐に入れていた麿香の袋を落とし、その香がヒノキに移ったということです。

現在では、明治23年から植栽されたヒノキが、「麿香沢のヒノキ」として、日本一のりっぴな造林地を造り上げています。

(★ 撮影ポイント)



◆ 6月 「オオヤマレンゲの花」

オオヤマレンゲの花は、赤沢美林の中央園地近くに多く咲きますが、観光客の皆さんには、あまりなじみ深い花ではないようです。花の咲くのが6月下旬の入梅時期にあたり、雨の中でひっそりと咲いているため、皆さんの目につかないようです。

真っ白なかわいらしい蕾をつけ、蕾のまま2週間ほど過ごします。花の寿命は2、3日と短命ですが、一輪咲いてはまた一輪と、次々に開花していきますので、その都度楽しんでくれます。木の高さは3mほど、花径は5-8センチで、1本に10輪くらいの花をつけます。純白の花は、ほのかな甘い香りを放ち、可憐で優美、そして高貴な花です。茶花としては、最高級の花といわれています。

別名を「天女花」ともいい、「この花の咲く所には、甘い香りに誘われて天女が舞い降りる」という話があるほどです。また植物学者の通称名を「ミチレンゲ」ともいい、皇后美智子さまの大好きな花としても有名です。

上松町では、この花を町の花に選定しています。上松町のシンボルとして、赤沢の山々に、町中の人々に、たくさん咲かせ、オオヤマレンゲの甘い香りが町中に漂う日も、夢ではないと思います。

(★ 撮影ポイント)



◆ 8月 「ヤマオダマキの花・森林鉄道」

この花は、赤沢の丸瀬付近から林道の端々や川べりにたくさん咲いています。多年草で目当たりのよい草原などに群生して咲く花ですが、赤沢では森林鉄道が走っていた当時から、なぜかその沿道に多く咲いていました。トラック道に改良された現在でも、8月の中ごろまで、糸を丸く巻いた「苧環」のように可憐に咲き誇っています。

赤沢の森林鉄道は大正4年に建設され、昭和51年の秋に最後の運材を終えました。今では、赤沢の鉄道記念館の中に、日本でただ1台になってしまった「ボールドウィン蒸気機関車」が展示され、ありし日の面影を残して、静かに眠っています。

木曾谷から永遠に消えてしまったかに思えた林鉄は、今、4月下旬から11月上旬まで毎日、観光客を乗せて運行されています。うっそうと繁る300年生の木曾ヒノキの美林の中、澄み切った溪流沿いに「ゴットン、ゴットン」と風流な林鉄の響きに身を任せるのも、心身のリフレッシュには最高ではないでしょうか。

(★ 撮影ポイント)





◆ 9月 「シモツケソウの花・五枚修羅」

赤沢美林の名花「シモツケソウ」—— 淡いピンクの上に、白い霜が降りかかったように咲いているところからその名がついたとか、8月から9月初旬の霜が降りるころまで咲いていることから名づけられたとか、いろいろな説があります。

五枚修羅から床堰まで、溪流沿いの砂地や岩間に、群落で上品に咲き誇っています。「修羅」とは、木曾式運材方法の一種で、丸太を弧形に並べ、そのうえに木材を滑らせて運ぶ装置のことです。五枚修羅は、花崗岩の巨岩が重なり合い、当時、木材流送いちばんの難所でした。そのため、修羅を5枚組まなければ木材を流送できなかったのです。

現在も岩を削り取った跡が見られ、昔の面影を偲ばせてくれます。この近辺の流れは、赤沢の中でも四季を通じてもっとも美しいのですが、ことに9月下旬から10月の紅葉のころは格別です。岩板を流れ落ちる首色は、赤、青、黄、緑の織り成す四重奏をバックに、わたしたちを夢の世界へと誘ってくれるのです。

(★ 撮影ポイント)



◆ 10月 「マルバの木の花」

赤沢美林のいたるところにこの花が咲いています。木曾谷の葎原が北限とされ、これより北では目にすることができません。ヒノキの代表的な下層植生とされ、この花の咲くところではヒノキがよく育つといわれています。

新緑が美しいので、生け花の材料にもよく用いられますが、なんといっても10月中旬からの紅葉が見事です。赤沢の金山が真っ赤に彩られ、溪流の流れは紅色に集まります。

秋の紅葉にかわいらしい花をつけ、その翌年に1年がかりで緑の実を実らせるのです。紅葉と同時に花が咲き、実までつけているなんて…このような花は、他にはないのでは。花は小さく直径5ミリくらい。葉脈に2個背中合わせに星型に開きます。ピンク色で、赤ちゃんのマツグの中の一つらな瞳を見る思いです。真っ赤な葉っぱの中に隠れるように咲いているので、よく見ないと見落としてしまいます

今まさに開こうとしているこの花——— じっと見つめると、初霜の1日でも遅いことを知らずにはいられません。

(★ 撮影ポイント)



…園内全域に分布



◆ 11月 「リュウノウギクの花」

リュウノウギクの花は、茎や葉に「竜腦」に似た匂いの揮発性の油が含まれるために、一般の方からあまりよい匂いではないといわれています。この花は、木曾地方では「野菊」とも呼ばれています。日当たりのよい崖や、岩の間に生える多年草です。イワインテンと同じ仲間ですが、晩秋遅くまで咲いていることでも有名です。

「赤沢美林」を彩った花たちも、この花を最後にここの役を終わりようとしています。ベニマンサクの紅葉もわたしたちに別れを告げ、すべての葉も落ちる美林の冬じたくの始まりを予感させます。

溪流沿いに咲いているこの花を見つけ、近づいてみれば、どこから集まってきたのか蜂たちが、残り少ない秋の日ざしを浴びながら季節の余韻を楽しむ間も惜むかのように蜜を求め、飛び交っていました。ふだんは群れて行動するイチモンジセセリも、この日はかりは1匹だけで夢中で蜜を吸っていました。「早くしないと仲間たちからはくれてしまよ」と声をかけても動こうとしません。赤沢で、おながいっばいの蜜を吸って、遠い南の国に旅立つつもりなのでしょうか？

赤沢のヒノキ美林の間を吹く風も、日1日と寒さを増し、初雪の訪れももうすぐです。

(★ 撮影ポイント)



◆ 12月 「雪の花・木曾ヒノキ」

太陽の光が遮られ、一瞬暗闇の世界に迷い込んだかとお惑うと、静寂のヒノキ美林の中を一陣の北風が吹き抜け、雪の花が舞い散り、枝の間からこぼれる逆光に映し出された世界は、まさしく神秘的な無限のものでした。

12月の赤沢の山々は、深く静かに雪が積もり、一面の銀世界の中で雪を冠したヒノキの大木は、一段と巨木に見え、天をも貫くがごとく荘厳に立っています。

300年もの歳月、変わらず生き続けてきたヒノキの原生林。このうっそうと茂る原生林も、江戸時代には「木1本、首ひとつ」とまでいわれた厳しい制度に保護されて、現代まで残されてきたのです。

古くから、一貫して優良な天然ヒノキの育成に力を入れ、現在は赤沢ヒノキ植物群落保護林・赤沢ヒノキ等遺伝資源保存林に選定し、青森のヒバ、秋田のスギとともに、日本三大美林のひとつとして、世界でも稀に見る、優れた天然林が存在するのです。

この木曾ヒノキの森を永遠に残すとともに、人と森林の歴史を静かに思い起こすところのできる場所として、赤沢の自然が美しいままで、いつまでも残りますように！

(★ 撮影ポイント)



…赤沢全域に分布

木曾悠久の森管理委員会の専門部会の運営について

第1 趣旨

木曾悠久の森管理委員会運営要領（平成26年5月1日施行）第2の2に基づき設置された専門部会の運営については、次のとおり定めるものとする。

第2 運営

- 1 専門部会は、委員の活発な議論を確保するため、非公開とする。
なお地方自治体の長が専門部会の委員となっている場合には、代理を認めるものとする。
- 2 専門部会の資料は、論議の過程におけるものであることから、非公開とする。
- 3 専門部会には座長をおき、委員の互選によって定める。
- 4 専門部会は、議事の運営上必要があると認めるときは、委員以外の者に出席を求め、その説明又は意見を聴くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。
- 5 座長は、担当する専門部会以外の専門部会の委員を兼ねることができる。
- 6 座長は会議を統括する。

第3 事務局

専門部会の事務局は、中部森林管理局計画課におく。

- 1 この運営については、平成26年8月22日から施行する。
- 2 この運営については、平成27年6月19日から施行する。
- 3 この運営については、平成27年12月2日から施行する。